

福岡市東区の防犯NPO法人「安全安心まちづくり研究会」理事長・坂本一成さん(45)は、9年前から空き巣などに入られないように福岡、長崎両県で住宅や公共施設の無料防犯診断をしている。これまでに行った診断は約6000件。経営する防犯機器販売会社のサービスとして行ううち、「犯罪被害者を減らしたい」との思いが強まり、会社を手放したうえでNPOを設立。警察とも連携し犯罪のないまちづくりに取り組んでいる。

(上村広道)

今日5日、坂本さんは同区で一戸建て住宅を防犯診断。1時間かけて玄関や窓の施錠、植え込みの高さなどにまで細かな忠告をして「お隣とあいさつを交わしていますか。異変を気遣い合うことが大切」と語りかけた。約10年前、自宅マンションで1日に5件もの空き巣事件が起きた。手口はいずれも特殊な工具を鍵穴に差し込む「ピッキング」。自宅への被害を心配して鍵店に駆け込むと、従業員は、坂本さん宅と同型の力ギを工具を使いわずか15秒で開けた。

「こんなに簡単に開くなんて」。あまりの驚きに、鍵店や知人の警察関係者から聞いた話を頼りに力ギの構造や侵入盗の手口分析に没頭。約1年後、防犯性に優れた力ギなどを販売する事業を知人と起こした。住宅診断はサービスとして始めたが、実際に窃盗や

無料防犯診断6000件

福岡の男性 被害者減らしたい

住宅の無料防犯診断をする坂本さん(手前)
(福岡市東区で)＝貞末ヒトミ撮影



NPO設立 警察とも連携

部屋に入られて性犯罪の被害に遭った依頼者の声は深刻だった。「犯人の顔を思い出して眠れない」「他人と会うのが怖くて外出できない」。恐怖が薄れず自らの命を絶った人もいたという。

「機器の販売だけでは根本的な対策にはならない。多くの人に犯罪の怖さや未然防止の大切さを知ってほしい」との思いが高じた。2006年3月に建築士らとNPOを設立し、理事

部に就任。自治体や企業からの講演料などで生計を立てる傍ら、ボランティアで防犯診断や公民館などでの講座を行うようになった。05年2月には福岡県警察署から「生活安全サポーター」に任命された。宗像、福岡両市で防犯診断を行っているほか、住民によるパトロール隊の結成を実現させた。署員の研修会では講師を務め、住民の防犯意識のあり方や防犯設備の導入

状況などを解説している。宗像市の昨年の窃盗犯認知件数は974件で、05年よりも235件減った。餅越省治副署長は「地域をつぶさに歩く坂本さんの観察眼は大変参考になる」と感謝する。

坂本さんは「常に地域の目を光らせ、『力ギかけ、声かけ、心がけ』を忘れないで」と呼びかけている。